付録　B：raidcmdコマンドリファレンス

raidcmd のコマンドリファレンスです。

物理デバイス番号について

raidcmd には-p オプションという、物理デバイス番号を指定するオプションがあります。
-p オプションには、必ず以下のコマンドを実行して出力される物理デバイス番号を指定してください。
物理デバイス番号は"**e<エンクロージャ番号>s<スロット番号>**"という形式で表されます。

[形式]

raidcmd

cc

[概要]

論理ドライブで整合性チェックを開始、もしくは実行中の整合性チェックを停止します。

[形式]

raidcmd **cc** -c={all|<*controller*> -l={all|<*logicaldrive*>}} -op={start|stop}

コマンドパラメータ	説明
-c={all|<*controller*>}	処理対象の RAID コントローラを指定します。 all： すべての RAID コントローラ <*controller*>：RAID コントローラ番号
-l={all|<*logicaldrive*>}	処理対象の論理ドライブを指定します。 all：-c で指定した RAID コントローラのすべての論理ドライブ <*logicaldrive*>： 論理ドライブ番号
-op={start|stop}	整合性チェックの開始、停止を指定します。 start： 開始 stop： 停止

[説明]

指定した論理ドライブで整合性チェックを開始します。もしくは、指定した論理ドライブで実行中の整合性チェックを停止します。
-c に all を指定した場合、-l は指定できません。

[条件]

整合性チェックの開始は、以下の条件の論理ドライブに実行できます。
- RAID コントローラが整合性チェックをサポートしている
- RAID レベルが 0 以外
- [Status] (ステータス)が[Online] (オンライン)
- 整合性チェックを実行していない

整合性チェックの停止は、以下の条件の論理ドライブに実行できます。
- RAID コントローラが整合性チェック、および、整合性チェックを停止する機能をサポートしている
- RAID レベルが 0 以外
- [Status] (ステータス)が[Online] (オンライン)、もしくは、[Degraded] (縮退)
- 整合性チェックを実行している

ccs

[概要]

パトロールリードをサポートしない、またはパトロールリードを無効に設定している RAID コントローラに存在する論理ドライブで整合性チェックを開始します。

[形式]

raidcmd **ccs**

[説明]

コンピュータに存在する RAID コントローラのうち、パトロールリード機能をサポートしない、またはパトロールリードを無効に設定しているすべての RAID コントローラのすべての論理ドライブで整合性チェックを開始します。

[条件]

ccs コマンドによる整合性チェックは、以下の条件の論理ドライブに実行します。

- RAID コントローラがパトロールリードをサポートしていない
- パトロールリードを無効に設定している
- RAID コントローラが整合性チェックをサポートしている
- RAID レベルが 0 以外
- [Status] (ステータス)が[Online] (オンライン)
- 整合性チェックを実行していない

delld

[概要]

論理ドライブを削除します。

[形式]

raidcmd **delld** -c=<*controller*> -l=<*logicaldrive*> [-y]

コマンドパラメータ	説明
-c=<*controller*>	処理対象の RAID コントローラを指定します。 <*controller*>：RAID コントローラ番号
-l=<*logicaldrive*>	処理対象の論理ドライブを指定します。 <*logicaldrive*>： 論理ドライブ番号
[-y]	論理ドライブ削除の実行確認メッセージを表示せずに、ただちに論理ドライブを削除します。

[説明]

指定した論理ドライブを削除します。

削除できる論理ドライブ

1 つのディスクアレイに複数の論理ドライブが存在する場合、ディスクアレイの最後尾に位置する論理ドライブのみ削除できます。ディスクアレイの先頭、もしくは、途中に存在する論理ドライブは削除できません。

ディスクアレイの削除

指定した論理ドライブを削除すると、ディスクアレイに論理ドライブが 1 つも存在しなくなる場合、ディスクアレイも削除します。

[条件]

RAID システム管理モードがアドバンストモードのときだけ実行できます。

delscd

[概要]

SSD キャッシュドライブを削除します。

[形式]

raidcmd **delscd** -c=<*controller*> -l=<*logicaldrive*> [-y]

コマンドパラメータ	説明
-c=<*controller*>	処理対象の RAID コントローラを指定します。 <*controller*>：RAID コントローラ番号
-l=<*logicaldrive*>	処理対象の SSD キャッシュドライブを指定します。 <*logicaldrive*>： 論理ドライブ番号
[-y]	SSD キャッシュドライブ削除の実行確認メッセージを表示せずに、ただちに SSD キャッシュドライブを削除します。

[説明]

指定した SSD キャッシュドライブを削除します。

<u>ディスクアレイの削除</u>

指定した SSD キャッシュドライブを削除すると、SSD キャッシュディスクアレイも削除します。

[条件]

RAID コントローラのプレミアム機能(CacheCade) が有効の場合のみ実行できます。
RAID システム管理モードがアドバンストモードのときだけ実行できます。

econfig

[概要]

RAID コントローラで RAID システムを自動で構築します。

[形式]

raidcmd **econfig**

[説明]

指定した RAID コントローラに RAID システムを自動で構築する「イージーコンフィグレーション」を実行します。イージーコンフィグレーションの詳細については、ユーザーズガイドの「RAID システムを簡単に構築する」を参照してください。

help

[概要]

raidcmd のヘルプを表示します。

[形式]

raidcmd **help** <*subcommand*>

コマンドパラメータ	説明
<*subcommand*>	ヘルプを参照したいコマンド名を指定します。 省略するとコマンドのリストを表示します。

[説明]

raidcmd のコマンドのヘルプを表示します。
コマンドパラメータを指定せずに実行すると、コマンドのリストを表示します。

hotspare

[概要]

ホットスペアを作成、解除します。

[形式]

raidcmd **hotspare** -c=<*controller*> -p=<*physicaldevice*> -mr={make [-a=<*diskarray1*> [,<*diskarrayX*>]] | remove } [-y]

コマンドパラメータ	説明
-c=<*controller*>	処理対象の RAID コントローラを指定します。 <*controller*>：RAID コントローラ番号
-p=<*physicaldevice*>	処理対象の物理デバイスを指定します。 <*physicaldevice*>： 物理デバイス番号
-mr={make [-a=<*diskarray1*>[,<*diskarrayX*>]] | remove}	ホットスペアの作成、解除を指定します。 make： 作成 -a オプションの有無により、作成するホットスペアの種類(共用ホットスペア、専用ホットスペア)と専用ホットスペアの場合は対象となるディスクアレイを指定します。 ホットスペアの作成の場合、-a オプションが存在しないときは、指定した物理デバイスで共用ホットスペアを作成します。 ホットスペアの作成の場合、-a オプションが存在し、ディスクアレイを正しく指定していれば、指定した物理デバイスでディスクアレイの専用ホットスペアを作成します。 <diskarray1>, <diskarrayX>： ディスクアレイ番号 remove： 解除
[-y]	ホットスペア作成/解除の実行確認メッセージを表示せずに状態を変更します。

[説明]

指定した物理デバイスで共用、または専用ホットスペアを作成します。もしくは、指定した物理デバイスのホットスペアを解除します。

[条件]

専用ホットスペアを作成する物理デバイスの容量は、ディスクアレイで使用中の物理デバイスと同じ、もしくは、それ以上である必要があります。
RAID レベルが RAID 0 の論理ドライブが存在するディスクアレイには、専用ホットスペアを作成できません。

init

[概要]

論理ドライブで初期化を開始、もしくは実行中の初期化を停止します。

[形式]

raidcmd **init** -c=<*controller*> -l=<*logicaldrive*> -op={start|stop} [-im={full|quick}] [-y]

コマンドパラメータ	説明
-c=<*controller*>	処理対象の RAID コントローラを指定します。 <*controller*>：RAID コントローラ番号
-l=<*logicaldrive*>	処理対象の論理ドライブを指定します。 <*logicaldrive*>： 論理ドライブ番号
-op={start|stop}	初期化の開始、停止を指定します。 start： 開始 stop： 停止
[-im={full|quick}]	初期化モードを指定します。 full： 完全 quick： クイック -im を省略すると、full を指定します。 -im は、-op=start のときのみ有効です。
[-y]	実行確認メッセージを表示せずに初期化を開始します。初期化の停止時は、[-y] を指定する、しないに関わらず実行確認メッセージを表示しません。

[説明]

指定した論理ドライブで初期化を開始します。もしくは、指定した論理ドライブで実行中の初期化を停止します。

[条件]

初期化の開始は、[Status] (ステータス)が[Online] (オンライン)の論理ドライブに実行できます。
初期化の停止は、[Status] (ステータス)が[Online] (オンライン)、もしくは、[Degraded] (縮退) の論理ドライブに実行できます。

mkldc

[概要]

詳細なパラメータ指定で論理ドライブを作成します。

[形式]

RAID レベルが RAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 6 の論理ドライブを作成する場合

raidcmd **mkldc** -c=<*controller*> {-p=<*physicaldevice1*> [, <*physicaldeviceX*>, … ,<*physicaldeviceZ*>] | -a=<*diskarray*> } –rl={0 | 1 | 5 | 6} [-cp=<*capacity*>] [-ss={1 | 2 | 4 | 8 | 16 | 32 | 64 | 128 | 256 | 512 | 1024}] [-cm={auto | writeback | writethru}] [-im={full | quick}] [-y]

RAID レベルが RAID 10 の論理ドライブを作成する場合

raidcmd **mkldc** -c=<*controller*> -p=<*physicaldevice1*>, <*physicaldevice2*> ,<*physicaldevice3*>,<*physicaldevice 4*> –rl=10 [-ss={1 | 2 | 4 | 8 | 16 | 32 | 64 | 128 | 256 | 512 | 1024}] [-cm={auto | writeback | writethru}] [-im={full | quick}] [-y]

RAID レベルが RAID 50 の論理ドライブを作成する場合

raidcmd **mkldc** -c=<*controller*>
-p=<*physicaldevice1*>,<*physicaldevice2*>,<*physicaldevice3*>,<*physicaldevice4*>,<*physicaldevice5*>,<*physicaldevice6*>[,…,<*physicaldeviceX*>] –rl=50 [-ss={1 | 2 | 4 | 8 | 16 | 32 | 64 | 128 | 256 | 512 | 1024}] [-cm={auto | writeback | writethru}] [-im={full | quick}] [-y]

コマンドパラメータ	説明
-c=<*controller*>	論理ドライブに使う物理デバイスを接続している RAID コントローラを指定します。 <*controller*>：RAID コントローラ番号
RAID レベル RAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 6 の論理ドライブを作成 {-p=<*physicaldevice1*> [,<*physicaldeviceX*>, … ,<*physicaldeviceZ* >] | -a=<*diskarray*> } RAID レベル RAID 10 の論理ドライブを作成 -p=<*physicaldevice1*>, <*physicaldevice2*> <*physicaldevice3*>,<*physicaldevice4*> RAID レベル RAID 50 の論理ドライブを作成 -p=<*physicaldevice1*>,<*physicaldevice2*>, <*physicaldevice3*>,<*physicaldevice4*>, <*physicaldevice5*>,<*physicaldevice6*> [,<*physicaldeviceX*>]	論理ドライブを作成する物理デバイスもしくは、ディスクアレイを指定します。 作成する RAID レベルにより指定方法が異なります。 物理デバイスを指定するときは、-p オプションを使います。 <*physicaldevice1,2,3,4,5,6,X,Z*>： 物理デバイス番号 物理デバイスは","で区切ります。 ディスクアレイを指定するときは、-a オプションを指定します。 <*diskarray*>： ディスクアレイ番号
-rl={0 | 1 | 5 | 6 | 10 | 50}	作成する論理ドライブの RAID レベルを指定します。 0：RAID 0 1：RAID 1 5：RAID 5 6：RAID 6 10：RAID 10 50：RAID 50
[-cp=<*capacity*>]	作成する論理ドライブの容量を指定します。 <*capacity*> :容量(単位 ：GB) -cp を省略すると、最大容量で論理ドライブを作成します。
[-ss={1 | 2 | 4 | 8 | 16 | 32 | 64 | 128 | 256 | 512 | 1024}]	作成する論理ドライブのストライプサイズを指定します。 1KB, 2KB, 4KB, 8KB, 16KB, 32KB, 64KB, 128KB, 256KB, 512KB, 1024KB -ss を省略すると、RAID コントローラの既定値を指定します。
[-cm={auto | writeback | writethru}]	作成する論理ドライブのキャッシュモードを指定します。 auto： 自動切替 writeback：Write Back writethru：Write Through -cm を省略すると、RAID コントローラの既定値を指定します。

コマンドパラメータ	説明
[-im={full | quick}]	作成する論理ドライブの初期化モードを指定します。 full： 完全モード quick： クイックモード -im を省略すると、full を指定します。
[-y]	論理ドライブ作成の実行確認メッセージを表示せずに、ただちに論理ドライブを作成します。

[説明]

論理ドライブで使うパラメータを詳細に指定して論理ドライブを作成します。
raidcmd は、論理ドライブを作成し、初期化を開始したら終了します。初期化の進捗状況と結果は、"**oplist**" コマンド、"**property**" コマンドで確認します。

作成できるRAIDレベル
RAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 6、RAID 10、RAID 50
選択できる物理デバイス
[Status] (ステータス)が[Ready] (レディ)の物理デバイス
全面使っていない物理デバイス
選択できるディスクアレイ
ディスクアレイの末端に空き領域があるディスクアレイ。作成する論理ドライブの RAID レベルは、同一ディスクアレイ上にすでに存在する論理ドライブと同じ RAID レベルである必要があります。
作成するディスクアレイと論理ドライブの構成
ディスクアレイを新規に作成する場合、指定した物理デバイスで、1 つのディスクアレイ、1 つの論理ドライブを作成します。
RAIDレベルがRAID 10、RAID 50 の論理ドライブの容量
RAID レベルが RAID 10、RAID 50 の場合、物理デバイスの全面を使って論理ドライブを作成します。容量は指定できません。

[条件]

RAID システム管理モードがアドバンストモードのときだけ実行できます。

mklds

[概要]

簡単なパラメータ指定で論理ドライブを作成します。

[形式]

raidcmd **mklds** -c=<*controller*> -p=<*physicaldevice1*>, <*physicaldevice2*>
[,<*physicaldeviceX*>, ... ,<*physicaldeviceZ*>] –rl={1 | 5} [-y]

<table>
<tr><th>コマンドパラメータ</th><th>説明</th></tr>
<tr><td>-c=<<i>controller</i>></td><td>論理ドライブに使う物理デバイスを接続している RAID コントローラを指定します。
<<i>controller</i>>：RAID コントローラ番号</td></tr>
<tr><td>-p=<<i>physicaldevice1</i>>,　<<i>physicaldevice2</i>>
[,<<i>physicaldeviceX</i>>, ... ,<<i>physicaldeviceZ</i>>
]</td><td>論理ドライブを作成する物理デバイスを指定します。
<<i>physicaldevice1,2,X,Z</i>>： 物理デバイス番号
物理デバイスは","で区切ります。</td></tr>
<tr><td>-rl={1 | 5}</td><td>作成する論理ドライブの RAID レベルを指定します。
1：RAID 1
5：RAID 5</td></tr>
<tr><td>[-y]</td><td>論理ドライブ作成の実行確認メッセージを表示せずに、ただちに論理ドライブを作成します。</td></tr>
</table>

[説明]

論理ドライブで使う物理デバイス、RAID レベルの 2 つのパラメータだけで簡単に論理ドライブを作成します。
raidcmd は、論理ドライブを作成し、初期化を開始したら終了します。初期化の進捗状況と結果は、”**optlist**” コマンド、”**property**” コマンドで確認します。

作成できるRAIDレベル
　RAID 1、RAID 5
選択できる物理デバイス
　[Status] (ステータス)が[Ready] (レディ)の物理デバイス
　全面使っていない物理デバイス
作成するディスクアレイと論理ドライブの構成
　指定した物理デバイスで、1 つのディスクアレイ、1 つの論理ドライブを作成します。
その他のパラメータ
　以下の設定で論理ドライブを作成します。
　容量 ： 物理デバイスの全面を使って論理ドライブを作成します。具体的な容量は、RAID レベルにより決まります。
　ストライプサイズ ：RAID コントローラの既定値
　キャッシュモード ：RAID コントローラの既定モード
　初期化モード ： 完全

mkscd

[概要]

SSD キャッシュドライブを作成します。

[形式]

raidcmd **mkscd** -c=<*controller*> -p=<*physicaldevice1*> [,<*physicaldeviceX*>, ... ,<*physicaldeviceZ*>] [-y]

コマンドパラメータ	説明
-c=<*controller*>	SSD キャッシュドライブに使う物理デバイスを接続している RAID コントローラを指定します。 <*controller*>：RAID コントローラ番号
-p=<*physicaldevice1*> [,<*physicaldeviceX*>, ... ,<*physicaldeviceZ*>]	SSD キャッシュドライブを作成する物理デバイスを指定します。 <*physicaldevice1,X,Z*>： 物理デバイス番号 物理デバイスは","で区切ります。
[-y]	SSD キャッシュドライブの作成の確認メッセージを表示せずに、ただちに SSD キャッシュドライブを作成します。

[説明]

SSD キャッシュドライブで使うソリッドステートドライブを指定して、SSD キャッシュドライブを作成します。

<u>選択できる物理デバイス</u>

[デバイスタイプ] が[HDD(SSD)] の物理デバイス

[Status] (ステータス)が[Ready] (レディ) の物理デバイス

全面使っていない物理デバイス

<u>SSDキャッシュドライブの容量</u>

物理デバイスの全面を使って、SSD キャッシュドライブを作成します。

[条件]

RAID コントローラのプレミアム機能(CacheCade) が有効の場合のみ実行できます。

RAID システム管理モードがアドバンストモードのときだけ実行できます。

oplist

[概要]

RAID コントローラで動作しているオペレーションの一覧と進捗状況を表示します。

[形式]

raidcmd **oplist**

[説明]

RAID コントローラで動作しているオペレーションの一覧と進捗状況を表示します。

<u>表示するオペレーション</u>

初期化、リビルド、整合性チェック

<u>終了したオペレーションの表示</u>

oplist は、実行中のオペレーションのみ表示します。終了したオペレーションは表示しません。

optctrl

[概要]

RAID コントローラのオプションパラメータを設定します。

[形式]

raidcmd **optctrl** -c=<*controller*> {-ip={high | middle | low} | -rp={high | middle | low} | -ccp={high | middle | low} | -pr={enable | disable} | -prp={high | middle | low} | -be={enable | disable} | -psd={none | hotspare} | -dst={0.5 | 1 | 2 | 4 | 8} }

コマンドパラメータ	説明
-c=<*controller*>	処理対象の RAID コントローラを指定します。 <*controller*>：RAID コントローラ番号
-ip={high | middle | low}	初期化優先度を指定します。 high： 高 middle： 中 low： 低
-rp={high | middle | low}	リビルド優先度を指定します。 high： 高 middle： 中 low： 低
-ccp={high | middle | low}	整合性チェック優先度を指定します。 high： 高 middle： 中 low： 低
-pr={enable | disable}	パトロールリードの実行有無を指定する。 enable： 有効 disable： 無効
-prp={high | middle | low}	パトロールリード優先度を指定する。 high： 高 middle： 中 low： 低
-be={enable | disable}	ブザーの有効、無効を指定する。 enable： 有効 disable： 無効
-psd={none | hotspare}	電源制御対象デバイスに HDD 電源制御の有効、無効を設定する。 none： 電源制御対象デバイス (なし) hotspare： 電源制御対象デバイス (ホットスペア)
-dst={0.5 | 1 | 2 | 4 | 8 }	省電力移行時間を指定します。 0.5：30 分 1：1 時間 2：2 時間 4：4 時間 8：8 時間

[説明]

指定した RAID コントローラのオプションパラメータ(初期化優先度、リビルド優先度、整合性チェック優先度、パトロールリード実行、パトロールリード優先度、ブザー有効/無効、HDD 電源制御、および、省電力移行時間)を設定します。

一度に設定できるパラメータは 1 つです。複数のパラメータを同時に設定できません。

[条件]

RAID システム管理モードがアドバンストモードのときだけ実行できます。

optld

[概要]

論理ドライブのオプションパラメータを設定します。

[形式]

raidcmd **optld** -c=<*controller*> -l=<*logicaldrive*> -cm={auto | writeback | writethru}

コマンドパラメータ	説明
-c=<*controller*>	処理対象の RAID コントローラを指定します。 <*controller*>：RAID コントローラ番号
-l=<*logicaldrive*>	処理対象の論理ドライブを指定します。 <*logicaldrive*>： 論理ドライブ番号
-cm={auto | writeback | writethru }	キャッシュモードを指定します。 auto： 自動切替 writeback：Write Back writethru：Write Through

[説明]

指定した論理ドライブのオプションパラメータ(キャッシュモード)を設定します。

[条件]

RAID システム管理モードがアドバンストモードのときだけ実行できます。

property

[概要]

RAID コントローラ、ディスクアレイ、論理ドライブ、物理デバイスのプロパティを表示します。

[形式]

raidcmd **property** –tg= { all | rc [-c=<*controller*>] | da -c=<*controller*> [-a=<*diskarray*>] | ld -c=<*controller*> [-l=<*logicaldrive*>] | pd -c=<*controller*> [-p=<*physicaldevice*>] }

コマンドパラメータ	説明
-tg=all	すべての RAID システムのプロパティを表示します。
-tg=rc [-c=<*controller*>]	RAID コントローラのプロパティを表示します。 -c で RAID コントローラ番号を指定すると、特定の RAID コントローラのプロパティを表示します。 -c を省略すると、すべての RAID コントローラのプロパティを表示します。 <*controller*>：RAID コントローラ番号
-tg=da -c=<*controller*> [-a=<*diskarray*>]	ディスクアレイのプロパティを表示します。 -c で RAID コントローラ番号を指定します。 -a でディスクアレイ番号を指定すると、特定のディスクアレイのプロパティを表示します。 -a を省略すると、-c で指定した RAID コントローラのすべてのディスクアレイのプロパティを表示します。 <*controller*>：RAID コントローラ番号 <*diskarray*>： ディスクアレイ番号
-tg=ld -c=<controller> [-l=<*logicaldrive*>]	論理ドライブのプロパティを表示します。 -c で RAID コントローラ番号を指定します。 -l で論理ドライブ番号を指定すると、特定の論理ドライブのプロパティを表示します。 -l を省略すると、-c で指定した RAID コントローラのすべての論理ドライブのプロパティを表示します。 <*controller*>：RAID コントローラ番号 <*logicaldrive*>： 論理ドライブ番号
-tg=pd -c=<controller> [-p=<*physicaldevice*>]	物理デバイスのプロパティを表示します。 -c で RAID コントローラ番号を指定します。 -p で物理デバイス番号を指定すると、特定の物理デバイスのプロパティを表示します。 -p を省略すると、-c で指定した RAID コントローラのすべての物理デバイスのプロパティを表示します。 <*controller*>：RAID コントローラ番号 <*physicaldevice*>： 物理デバイス番号

[説明]

RAID コントローラ、ディスクアレイ、論理ドライブ、物理デバイスのプロパティを表示します。
コンピュータに接続している管理対象の RAID システムすべて、もしくは、特定の RAID コントローラ、ディスクアレイ、論理ドライブ、物理デバイスのプロパティを表示できます。

rebuild

[概要]

物理デバイスをリビルドします。

[形式]

raidcmd **rebuild** -c=<*controller*> -p=<*physicaldevice*> -op={start|stop}

コマンドパラメータ	説明
-c=<controller>	処理対象の RAID コントローラを指定します。 *<controller>*：RAID コントローラ番号
-p=<physicaldevice>	処理対象の物理デバイスを指定します。 <physicaldevice>： 物理デバイス番号
-op={start|stop}	リビルドの開始、停止を指定します。 start： 開始 stop： 停止

[説明]

指定した物理デバイスでリビルドを開始します。もしくは、指定した論理ドライブで実行中のリビルドを停止します。

[条件]

RAID システム管理モードがアドバンストモードのときだけ実行できます。
リビルドの開始は、物理デバイスの[Status] (ステータス) が[Failed] (故障)、かつ、その物理デバイスが構成する論理ドライブの[Status] (ステータス)が[Degraded] (縮退)のときに実行できます。

refresh

[概要]

RAID コントローラのバッテリをリフレッシュします。

[形式]

raidcmd **refresh** -c=<*controller*> [-y]

コマンドパラメータ	説明
-c=<controller>	処理対象の RAID コントローラを指定します。 <*controller*>：RAID コントローラ番号
[-y]	バッテリリフレッシュの確認メッセージを表示せずに、ただちにバッテリリフレッシュを開始します。

[説明]

指定した RAID コントローラでバッテリリフレッシュを実行します。

[条件]

バッテリを接続している RAID コントローラがバッテリリフレッシュをサポートしている場合のみ実行できます。
RAID システム管理モードがアドバンストモードのときだけ実行できます。

refreshs

[概要]

バッテリリフレッシュをサポートしている RAID コントローラにバッテリリフレッシュを実行します。

[形式]

raidcmd refreshs

[説明]

バッテリが接続されている RAID コントローラのうち、バッテリリフレッシュをサポートしているすべての RAID コントローラでバッテリリフレッシュを実行します。

[条件]

バッテリを接続している RAID コントローラがバッテリリフレッシュをサポートしている場合のみ実行します。

rescan

[概要]

Universal RAID Utility の RAID システム管理情報を最新の内容に更新します。

[形式]

raidcmd **rescan**

[説明]

Universal RAID Utility が管理しているすべての RAID システムから収集した構成情報、状態情報をすべて収集しなおし、Universal RAID Utility の管理情報を最新の状態にします。

runmode

[概要]

raidcmd の RAID システム管理モードを変更します。

[形式]

raidcmd **runmode** [-md={a|s}]

コマンドパラメータ	説明
[-md={a|s}]	変更する RAID システム管理モードを指定します。-md オプションを指定しない場合、現在の RAID システム管理モードを表示します。 a： アドバンストモード s： スタンダードモード

[説明]

raidcmd の RAID システム管理モードを変更、もしくは、現在の RAID システム管理モードを表示します。

変更後のモードの有効期間

RAID システム管理モードは、runmode コマンドにより RAID システム管理モードを変更するまで有効です。コンピュータを再起動しても RAID システム管理モードは変更しません。

sbuzzer

[概要]

障害発生時などに鳴る RAID コントローラのブザーを停止します。

[形式]

raidcmd **sbuzzer** -c=<*controller*>

コマンドパラメータ	説明
-c=<controller>	処理対象の RAID コントローラを指定します。 <*controller*>：RAID コントローラ番号

[説明]

指定した RAID コントローラで鳴っているブザーを停止します。
本コマンドは、ブザーが鳴っていないときに実行しても正常終了します。

slotlamp

[概要]

物理デバイスを実装している本体装置、エンクロージャの DISK ランプを点灯、消灯します。

[形式]

raidcmd **slotlamp** -c=<*controller*> -p=<*physicaldevice*> -sw={on|off}

コマンドパラメータ	説明
-c=<controller>	処理対象の RAID コントローラを指定します。 <*controller*>：RAID コントローラ番号
-p=<physicaldevice>	処理対象の物理デバイスを指定します。 <physicaldevice>： 物理デバイス番号
-sw={on|off}	ランプの点灯、消灯を指定します。 on： 点灯 off： 消灯

[説明]

指定した物理デバイスを実装している本体装置、エンクロージャの DISK ランプを点灯、もしくは、消灯します。
すでに DISK ランプが点灯しているときに、-sw=on で点灯を実行しても、raidcmd は正常終了します。
すでに DISK ランプが消灯しているときに、-sw=off で消灯を実行しても、raidcmd は正常終了します。

stspd

[概要]

物理デバイスを強制的にオンライン状態、故障状態に変更します。

[形式]

raidcmd **stspd** -c=<*controller*> -p=<*physicaldevice*> -st={online|offline} [-y]

コマンドパラメータ	説明
-c=<controller>	処理対象の RAID コントローラを指定します。 <*controller*>：RAID コントローラ番号
-p=<physicaldevice>	処理対象の物理デバイスを指定します。 <physicaldevice>： 物理デバイス番号
-st={online|offline}	変更する状態を指定します。 online： オンライン offline： 故障
[-y]	状態変更の実行確認メッセージを表示せずに状態を変更します。

[説明]

指定した物理デバイスの[Status] (ステータス)を[Online] (オンライン)、もしくは、[Failed] (故障)に変更します。

[条件]

RAID システム管理モードがアドバンストモードのときだけ実行できます。

コマンドなし

[概要]

Universal RAID Utility のバージョンおよび RAID システムの構成をツリー表示します。

[形式]

raidcmd

[説明]

インストールしている Universal RAID Utility のバージョンと、RAID システムの構成をツリー状に表示します。